

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/8)

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	教授	氏名	アキ 秋 田 イワオ 巖
学歴	昭和60年 3月 高知医科大学医学部医学科 卒業 平成 8年 7月 チューリッヒ・ユング研究所 卒業				
学位	平成 5年 3月 医学博士（高知医科大学 博乙第87号）				
専門分野	精神医学、ユング心理学				
専門資格	医師免許（No.291259）、臨床心理士（No.3770）、ユング派分析家国際資格（No.1342）				
所属学会	昭和60年 6月 日本精神神経学会 昭和61年10月 日本心身医学会（～平成24年3月） 昭和62年 4月 日本箱庭療法学会 平成 3年 4月 日本心理臨床学会 平成 8年 7月 国際分析心理学会 平成16年 4月 日本心理学会				
受賞	平成16年 河合隼雄賞（日本箱庭療法学会）受賞 （論文タイトル:「二重人格を呈したヒステリーに対する箱庭療法 ―一卵性双生児の症例―」、「砂だけの造形 ―神経性食思不振症のケースより―」）				
担 当 授業科目	学 部 コミュニケーションスキル演習、臨床コミュニケーション論、臨床心理学演習、臨床心理学研究法演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学総合演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学実践演習（夢分析3）、物語と臨床心理学、卒業論文 大学院 心理療法特演Ⅰ-A・Ⅱ-A、臨床心理学特演Ⅰ-A・Ⅰ-B、臨床心理学特演Ⅱ-A・Ⅱ-B、心理臨床査定特演Ⅰ-A・Ⅰ-B、心理臨床査定特演Ⅱ-A・Ⅱ-B、臨床心理学研究演習Ⅰ-A・Ⅰ-B、Ⅱ-A・Ⅱ-B				
論文指導	論文指導担当[主査]（卒論：12名、修士論文： 2名、博士論文： 0名） 論文審査担当[副査]（卒論： 7名、修士論文： 4名、博士論文： 0名）				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名 物語と臨床心理学		科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験		実施学期 春・秋
	履修者数 約170名				
	授業の概要： 主に日本の物語をDVDで紹介し、それを多角的に検討。そして、授業終了時に学生に質問やコメントを提出させ、次回にフィードバックしている。				
	教育活動の振り返り： 授業終了時に学生が提出するコメントカードへのフィードバックにより、学生との相互交流が豊かとなっている。 教育活動の成果： 物語を多角的に検討することにより、学生がものをみる視点が増え、視野が広がる。そして人間としての深みが少しでも増すことに寄与していると考えている。 今後の課題： 全体としての構成は今のままで特に問題はないと思われるので、今後より一層今の在り方を成熟させていくことが課題となる。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/8)

F D 教 育 活 動 実 績	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。 ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 正規授業外での学生相談・学生指導を行っている。 各種学会に参加し、下記研究活動に記載しているように指定討論者等を行っている。 学内で各種イベントを開催し、学生の教養を高めることに寄与している。
H26 年度 研究課題	学部・大学院（博士前期課程・博士後期課程）共通 1. 物語・イメージ研究 2. Disfigured Hero論 3. 日本的精神性研究 4. 狂気論
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要	1. 物語・イメージ研究に関しては、平成26年11月から平成27年1月にかけて東京青山のNHKカルチャーセンターで、「写楽は何を描こうとしたのか」と題した講座を受け持った。それが平成27年1月から3月に週一回、NHK第二ラジオにて放送された（全12回）。〈後述：（その他、エッセイ・翻訳・学術講演等）その他：5〉 2. Disfigured Hero論においては、平成25年に刊行した『人はなぜ傷つくのか』（講談社選書メチエ）でひとまずの区切りをつけたが、これは生涯に渡る課題であるので、5年後を目途にバージョンアップすべく研究を継続している。 3. 日本的精神性研究に関しては、平成26年8月に『日本の心理療法 思想篇』（編著、新曜社）を上梓できた。〈後述：（著書）1〉引き続き、研究を進め「日本の心理療法シリーズ」の刊行を行っていく予定である。 4. 狂気論に関しては、平成24年に『さまよえる狂気』（創元社）を出版したが、これも引き続き研究を進めており3年後を目途に新刊出版を目指している。
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等	（著書） 1. 『日本の心理療法 思想篇』、共著（「はじめに」「序」「ディスカッション」「おわりに」担当）、平成26年8月、新曜社、秋田巖編、280p（担当箇所：pp. i - ii, iii-vi, 247-276, 277-280） （論文） 1. 「遠藤論文へのコメント」、単著、平成26年12月、大阪大学心理教育相談室紀要第20号（pp.54-55） 2. 「鈴木論文へのコメント」、単著、平成27年2月、天理大学カウンセリングルーム紀要第11号（pp.168-171） （学会報告、学会活動） 1. 指定討論者：「虐待の連鎖へのもがき一夢の中の『死に切れないもの』を巡って」、単独、平成26年6月、発表者：岡田光夫、日本ユング心理学会第3回大会、文京学院大学 2. Chairman, Speaker; Hao-Wei Wang.M.D., Topic; “Disaster as a Mirror”, The East Asian Academy of Cultural Psychiatry (EAACP) 15th Symposium, Kyushu University, School of Medicine, Aug.30,2014 3. 指定討論者：「不登校中学生女子とのセラピーーボーカロイド・アニメを通じたかわりー」、単独、平成26年10月、発表者：宇都原亜莉沙、日本箱庭療法学会第28回大会、東洋英和女学院大学 4. 指定発言者：「日本文化から生まれた心理療法としての内観への提言」、平成26年10月、第17回日本内観医学会奈良大会 シンポジウムB「内観療法の新たな可能性を探る」、奈良女子大学 （その他、エッセイ・翻訳・学術講演等） 学術講演： 1. 「写楽の深層ー自己絵画療法としての写楽画ー」、単独、平成26年10月、高知心理療法研究所主催カウンセリング講座、高知プリンスホテル

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/8)

平成二十六年 (2014) 年度の主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき) エッセイ・雑文： 1. 「臨床物語学入門」、単著、平成26年8月、出版ニュース社、出版ニュース8月上旬号 (p.50) その他： 1. 企画・司会・対談：日本の精神性研究「古典芸能と日本の精神性」(講師：吉田蓑二郎「文楽と人形、そしてその魅力Ⅱ」)、共同、平成26年6月、京都文教大学臨床物語学研究センター主催講演会、京都文教大学 2. 企画・司会・対談：日本の精神性研究「古典芸能と日本の精神性」(講師：鉤逢賀「剣舞と日本人の心」)、共同、平成26年7月、京都文教大学臨床物語学研究センター主催講演会、京都文教大学 3. 企画・司会・対談：京都文教大学臨床物語学研究センター主催講演会 (講師：高野祥子「箱庭療法とその世界」)、共同、平成26年7月、京都文教大学 4. 企画・司会：京都文教大学臨床物語学研究センター主催ワークショップ (講師：平田オリザ「セラピストのコミュニケーション能力を養うためのワークショップ」)、共同、平成26年7月、京都文教大学 5. NHKカルチャーラジオ講座 講師&ラジオ収録「写楽は何を描こうとしたのか」、単独、平成26年11月-12月・平成27年1月、NHK文化センター青山教室 (この講座はNHK第二放送で毎週水曜日1月から3月まで12回放送された。) 6. 企画：京都文教大学臨床心理学部・京都文教大学臨床物語学研究センター・心理臨床センター共催「声と身体 一能における声・身体・囃子一」(講師：大江信行他)、共同、平成26年11月、京都文教大学 7. 企画・司会・対談：日本の精神性研究「能の魅力について ～『定家』を読む～」(講師：小川佳世子)、共同、平成27年1月、京都文教大学臨床物語学研究センター主催講演会、京都文教大学 (調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) (学内活動) 臨床物語学研究センター長、健康管理センター長、自己点検・評価委員会委員、宇治学舎衛生委員会委員
平成二十六年 (2014) 年度の社会における活動	(NPO 法人等の団体への参画) ・高知心理療法研究所顧問「平 3.11 より」 ・医療法人渡辺クリニック 非常勤医師「平 10.9 より」 ・日本ユング派分析家協会理事「平 14.2 より」 ・日本ユング心理学会役員「平 24.4 より」 (その他) ・オフィス オータム 主宰「平21.8より」
平成二十一年～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(著書) 1. 『さまよえる狂気 一精神学からの提言一』、単著、平成24年1月、創元社、226p 2. 『死を育てる』、共編、平成24年7月、ナカニシヤ出版、共編者：金山由美、170p 3. 「序文」、平成24年12月、風間書房、倉西宏著『遺児における親との死別体験の影響と意義』(pp.1-3) 4. 『人はなぜ傷つくのか 一異形の自己と黒い聖痕一 (講談社選書メチエ)』、単著、平成25年7月、講談社、286p 5. 『写楽の深層 (NHKブックス№1213)』、単著、平成26年2月、NHK出版、209p (論文) 1. 「『迷路』をさまよう者たちへ」、単著、平成22年1月、京都文教大学学生相談室 学生相談臨床第5号 (pp.15-20) 2. 「チベット医学における夢」、共著、平成22年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第12号 (pp.1-15)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/8)

(論文 つづき)

3. 「カフーを待ちわびて ―「異類婚姻譚」の個性化の観点から、そしてPraying Anima試論として」、単著、平成23年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第13号 (pp.31-43)
4. 「遍路にみる日本の精神性 ―日本の心理療法への可能性に向けて―」、共著、平成23年3月、共著者：北村香織、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.11 (pp.123-135)
5. 「神経症と精神病 (II)」, 単著、平成23年8月、丸善出版、日本心理臨床学会編、心理臨床学事典 (pp.244-245)
6. 「ロボット心理学・序 (I) アンドロイド演劇《さよなら》の意味するもの ―セラピストと異類の観点から―」、単著、平成24年3月、京都文教大学 心理臨床センター 臨床心理研究第14号 (pp.43-48)

(学会報告、学会活動)

1. 研究発表座長・司会：「心身症に悩む中学生 (男子) の心と身体の変化 ―箱庭療法と動作法を視点に―」、単独、平成22年6月、発表者：三好敏之、日本ユング心理学会第1回大会、文京学院大学
2. 韓国箱庭療法学会 グループ・スーパーヴィジョン講師、単独、平成22年7月、ソウル
3. 研究発表司会：「トラウマとして再発見された出来事を人生物語に組み入れるために」、単独、平成22年9月、発表者：上手幸治・大塚美菜子、日本心理臨床学会第29回大会、東北大学
4. 指定討論者：「トゥーレット障害が疑われるBとの箱庭・プレイ『梓』について考える」、単独、平成22年10月、発表者：敷寿枝、日本箱庭療法学会第24回大会、ノートルダム清心女子大学
5. 座長「Recapture of the wife ―3つの昔話の比較による日本人の結婚モチーフ再考―」(発表者：深津尚史)、平成23年6月、日本ユング心理学会第2回大会、京都大学
6. 座長「諏訪大社ミシャグジ儀礼に関する分析心理学的考察 その2 ―上社豊穰儀礼について―」(発表者：吉川眞理)、平成23年6月、日本ユング心理学会第2回大会、京都大学
7. 指定討論・発表：深津尚史「ユングVSミンデル ―ユング心理学からみたプロセス指向心理学 (POP) ー」、共同、平成24年6月、日本ユング心理学会設立大会、明治大学
8. 指定討論・発表：宮崎健祐「強迫性障害の6歳女兒に対する心理療法過程」、共同、平成24年10月、日本箱庭療法学会第26回大会、米子コンベンションセンター
9. 指定討論者：「大地との巡りあい ～イマジネーションを錬金術的にみる試み～」, 単独、平成25年6月、発表者：上條史絵・筒井優介、日本ユング心理学会第2回大会、京都大学
10. 指定討論者：「身体症状を訴えて来談した中学生男子との面接課程 ―CIの描画とThの身に起こった症状について―」、単独、平成25年10月、発表者：赤川力、日本箱庭療法学会第27回大会、大阪府立大学
11. 講演「箱庭療法における饒舌、あるいは深い沈黙」、単独、平成26年2月、第2回日本箱庭療法学会全国研修会、天理大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演：

1. 「「影」と舞う精神学」、単独、平成21年8月、韓国箱庭療法学会研修会、ソウル
2. 「事例研究のためのイメージ解釈 ―日本の精神性からのアプローチ―」、単独、平成21年12月、このはな心理臨床セミナー、このはな児童学研究所
3. 「私たちのなかの『狂気』 ―狂気の居場所―」、単独、平成24年6月、高知心理療法研究所講座Ⅰ期、高知共済会館
4. 「受容・共感の困難さ、あるいは不可能性について」& GSV、単独、平成24年7月、事例発表者：藤本恵里、大阪医療センター
5. 「人はなぜ傷つくのか ―異形の自己と黒い聖痕―」、単独、平成25年9月、日本ユング心理学研究所夏学期セミナー、京都
6. 『日本における心理療法 共有される深い沈黙、あるいは「 』』、単独、平成25年12月、高知心理療法研究所講座Ⅱ期、高知共済会館
7. 「日本人の心 ―隠れている大切な『何か』―」、単独、平成26年3月、第3回日本ユング心理学研究所研修会、京都

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/8)

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)

巻頭言:

1. 「必殺仕事女子」、単著、平成23年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.11
2. 「命という存在性」、単著、平成24年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.12

エッセイ・雑文:

1. 「高知心理療法研究所、20周年のお慶びとして」、単著、平成23年11月、高知心理療法研究所20周年記念誌 (p.7)
2. 「所長あいさつ「体感」」、単著、平成24年3月、京都文教大学人間学研究所ニューズレター vol.8

その他:

1. 企画・(辰巳満次郎との)対談:『能における狂ひの美学 ～実演とワークショップを通じた体感～』、共同、平成21年6月、京都文教大学臨床心理学部・京都文教大学健康管理センター共催公開イベント、京都文教大学
2. (ニダ・チェナクツァンとの)対談:『チベット医学の夢解釈』、平成21年8月、京都文教大学心理臨床センター主催公開講演、京都文教大学
3. 企画・司会:『箱庭から見た日本の精神性』(レクチャー:ルース・アマン「箱庭と夢から見た日本の精神性について」)、共同、平成21年11月、京都文教大学心理臨床学部主催公開シンポジウム、京都文教大学
4. 企画・対談:「日本の精神性」(講師・鏡リュウジ『「西洋」占星術の日本への受容をめぐる』)、共同、平成21年12月、京都文教大学臨床心理学部主催公開講演会、京都文教大学
5. 企画・(天野文雄との)対談:「日本の精神性」(講師・天野文雄『能から見た日本の精神性』)、共同、平成21年12月、京都文教大学臨床心理学部主催公開講演会、京都文教大学
6. 企画・講演・(ドリス・リエールとの)対談:「日本の精神性」(講師:ドリス・リエール「アノレキシア・ネルヴォーザの深層」、講師:秋田巖「ディスフィギュアド・ヒーローの深層」)、共同、平成21年12月、京都文教大学臨床心理学部主催公開講演会、京都文教大学
7. 企画・シンポジスト:『心理療法と占い 後ろ向きの予言としての深層心理学』(基調講演:マギー・ハイド、通訳・シンポジスト:鏡リュウジ、シンポジスト:濱野清志)、共同、平成22年4月、京都文教大学人間学研究所主催公開シンポジウム、京都文教大学
8. 企画・司会・対談:『生活臨床の日本の特性 ―西洋の精神療法と比べて』(講師:井上新平)、共同、平成22年6月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講座「シリーズ日本の心理療法研究」第1回、京都文教大学
9. 企画・司会・シンポジスト:『世阿弥の能とその世界観 ―「頼政」をめぐる―』(講師:天野文雄、コメンテーター:小川佳世子)、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開シンポジウム「能から見る日本の精神性」、共同、平成22年6月、京都文教大学
10. 企画・司会・対談:『武士道の成立と展開』(講師:笠谷和比古、コメンテーター:禹鐘泰)、共同、平成22年6月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講演会「武道からみる日本の精神性」、京都文教大学
11. 企画・司会・対談:『臨床動作法と日本の心理療法との関連』(講師:鶴光代)、共同、平成22年6月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講座「シリーズ日本の心理療法研究」第2回、京都文教大学
12. コメンテーター『チベット医学とスピリチュアリティ ―瞑想と癒し―』(講師:ニダ・チェナクツァン、司会・コメンテーター:永澤哲、通訳:田上操)、共同、平成22年7月、京都文教大学人間学研究所・人間学研究所共同研究プロジェクト「福祉に生かす代替療法」共催、京都文教大学
13. 企画・司会・対談:『寺社巡礼に見る日本の精神性 ―日本の心理療法への可能性に向けて―』(講師:藤波源信、導入解説:寺島英貴)、共同、平成22年10月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開シンポジウム「宗教と日本の精神性」、京都文教大学
14. 企画・司会・対談:『合気道に見る日本の精神性』(講師:ジャック・パイエ、コメンテーター:三野田加寿実)、共同、平成22年10月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開シンポジウム+実演「武道と日本の精神性」、京都文教大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/8)

平成二十一年十一月二十五日(2009～2013)年度の主な研究成果等

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)

15. 企画・司会・対談：「古典芸能に見る日本の精神性」(講師：山口幹文、コメンテーター：清源友香奈)、共同、平成22年10月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講演会+実演(『鼓童』)、京都文教大学
16. 企画・司会・対談：「遍路にみる日本の精神性 ー日本の心理療法への可能性に向けてー」(講師：北村香織)、共同、平成22年11月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講座「シリーズ日本の心理療法研究」第3回、京都文教大学
17. 企画・司会・進行：「死を育てる」(講演：渡辺洋一郎、シンポジスト：篠原鋭一・平岡聡・平田俊明、司会・進行：金山由美)、共同、平成22年11月、京都文教大学人間学研究所・心理臨床センター・宗教委員会共催公開シンポジウム、京都文教大学
18. 企画・司会・対談：『<私>について 和歌・能における<私>と西洋的(近代的)自我』(講師：小川佳世子)、共同、平成22年12月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講演会「古典芸能と日本の精神性」、京都文教大学
19. 企画・司会・対談：『森田療法における日本の精神性』(講師：北西憲二)、共同、平成23年1月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講座「シリーズ日本の心理療法研究」第4回、京都文教大学
20. 企画・司会・対談：「心理臨床の日米比較 ー感情調節困難の臨床の発展を中心にー」(講師：遊佐安一郎)、平成23年4月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講座「シリーズ日本の心理療法研究」第5回、京都文教大学
21. 企画・司会・対談：「気と体にみる日本の精神性 ～気のせいか、気のおかげか?～」(講師：濱野清志)、平成23年5月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講座「シリーズ日本の心理療法研究」第6回、京都文教大学
22. 企画・司会・対談：「能のなかの<わたし>」(講師：小川佳世子)、平成23年6月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講演会「古典芸能と日本の精神性」、京都文教大学
23. 企画・司会・対談：「死者への配慮」(講師：吉岡洋)、平成23年7月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開講演会「宗教と日本の精神性」、京都文教大学
24. 企画・司会：「心理療法における『美的なもの』について」樋口和彦・「西洋のサイコセラピーと日本の心性」遊佐安一郎・「歎異抄、昔話そして分析」ウルスラ・ヴァイス・「分析心理学と表現・芸術療法 ー西洋と東洋との出会いー」ポール・クークラー・「海外の心理臨床家との出会いを通して」名取琢自・「日本の風土と精神医療の出会い」吉村夕里、平成23年9月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開シンポジウム「日本の心理療法 国際比較編」、京都文教大学
25. 企画・司会：「能のなかの<わたし>」小川佳世子・『自己』概念の東方伝播：印欧語文化圏からの旅人として仏教を見る」手嶋英貴・「アラブの音楽を通して見えてくるもの ～トーク&ウッド演奏～」常味裕司・「ポーランドと非・西欧をめぐる ～視覚芸術を中心に」加須屋明子・「和太鼓演奏における“私性(わたくしせい)” ー非我と無我を経てー」清源友香奈、平成23年10月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部・健康管理センター共催公開シンポジウム+楽器演奏「非・西欧的<わたくし>をめぐる」、京都文教大学
26. 企画・司会：「狂ひの美学 ～狂うはヒトかオニか?～」(講師・実演：辰巳満次郎 他)、平成23年11月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部・健康管理センター共催公開講演会+実演、京都文教大学
27. パネリスト：「こころの声を聴く」、平成23年11月、高知心理療法研究所20周年記念シンポジウム、高知県民文化ホール(グリーンホール)
28. 企画・司会：「東洋における人間理解と森田療法」北西憲二・「生活臨床の時代」井上新平・「サイコセラピーとしての内観」真栄城輝明、平成23年12月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開シンポジウム「日本の心理療法 思想編」、京都文教大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/8)

平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な研究成果等

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)

29. 企画・司会：「気のせいか、気のおかげか? 〜気・イメージ・身体〜」濱野清志・「臨床動作法に見る動作のこころ」鶴光代・「歩き遍路の身体性」北村香織・「和太鼓演奏における身体体験」清源友香奈、平成24年3月、京都文教大学人間学研究所・臨床心理学部共催公開シンポジウム「日本の心理療法 身体編」、京都文教大学
30. 企画・司会・対談：公開講演会『日本の心理療法 背景編 宗教と日本の精神性』（講師：船橋信彌「神道と日本の精神性」）、共同、平成24年4月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
31. 企画・司会・対談：公開講演会『日本の心理療法 背景編 宗教と日本の精神性』（講師：石居基夫「日本におけるキリスト教受容あるいは非受容について」）、共同、平成24年6月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
32. 企画・司会・対談：教育福祉心理学科開設記念特別講演会『日本の心理療法 背景編 古典芸能と日本の精神性』（講師：中村獅童「歌舞伎のこころ」）、共同、平成24年8月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
33. 企画・司会・対談：教育福祉心理学科開設記念特別講演会『日本の心理療法 背景編 古典芸能と日本の精神性』（講師：桐竹勘十郎 他2名「文楽における日本の精神性」）、共同、平成24年10月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
34. 企画・司会・対談：『シリーズ日本の心理療法 背景編 武道・芸道と日本の精神性』（講師：小笹晃「茶道と日本の精神性」）、共同、平成24年11月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
35. 企画・司会・対談：日本の精神性研究『能と物語 ―《鶴》とは何物か―』（講師：小川佳世子）、共同、平成24年12月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
36. 企画・司会・対談：『シリーズ日本の心理療法 背景編 古典芸能と日本の精神性』（講師：山村若「日本舞踊と日本の精神性」）、共同、平成25年1月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
37. 『中村獅童 活動10周年特別会報誌』（2013.1.25発行）祝福文、単独、平成25年1月、中村獅童事務所
38. 企画・司会・対談：日本の精神性研究「古典芸能と日本の精神性」（講師：吉田蓑二郎「文楽と人形、そしてその魅力」）、共同、平成25年4月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
39. 企画・司会・対談：『日本の心理療法 背景編 武道・芸道と日本の精神性』（講師：真神巍堂「書道と日本の精神性」）、共同、平成25年5月、京都文教大学臨床心理学部主催公開講演会、京都文教大学
40. 企画・司会・対談：『シリーズ日本の心理療法 背景編 古典芸能と日本の精神性』（講師：桂文我「落語と日本の精神性」）、共同、平成25年6月、京都文教大学臨床心理学部主催公開講演会、京都文教大学
41. 企画・司会・対談：『日本の心理療法 背景編 古典芸能と日本の精神性』（講師：中村獅童・松井章圭「心を鍛え、体を鍛え、魂の声を聴く」）、共同、平成25年8月、京都文教大学臨床心理学部客員教授就任記念特別講演会、京都文教大学
42. 企画・司会・進行：『日本の心理療法 背景編 演劇と物語、そして人間』（講師：平田オリザ「わかりあえないことから」）、共同、平成25年11月、京都文教大学臨床心理学部主催、京都文教大学
43. 企画・司会・進行：『声と身体 一能における声・身体・囃子一』（講師：大江信行（観世流シテ方楽師）・佐鴻泰弘他3名（囃子方））、共同（濱野清志）、平成25年11月、京都文教大学臨床心理学部 シリーズ日本の心理療法・コミュニケーションスキル演習共催、京都文教大学
44. 企画・司会・対談：『シリーズ日本の心理療法 背景編 古典芸能と日本の精神性』（講師：七世竹本住大夫「芸と心」）、共同、平成26年1月、京都文教大学臨床心理学部主催公開講演会、京都文教大学
45. 「魂は症状を利用する」、単著、平成25年7月、講談社、『本』8月号（第38巻第8号）（pp.22-24）

(調査活動)

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

平成19年度-平成22年度

科学研究補助金（基盤研究C）「心理療法家の専門性と職業環境の国際比較」（課題番号 20530648・研究代表者：名取琢自）の研究分担者として国際比較の研究を行った。

平成 26（2014）年度 教員活動報告書（8/8）

平成 二十一 ～ 二十五 （2009～2013） 年度の 主な 研究 成果等	（学内活動） 平成15年 4月 健康管理センター長「現在に至る」 宇治学舎衛生委員会委員「現在に至る」 大学運営会議委員「平25.3まで」 自己点検・評価委員会委員「現在に至る」 平成20年 4月 特色GP委員会委員「平22.3まで」 入試委員会委員（大学院）「平23.3まで」 人間学研究所所員（平22.4より所長）「平24.3まで」 平成22年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平24.3まで」 平成24年 4月 研究成果刊行助成委員会委員「平25.3まで」
平成 二十一 ～ 二十五 （2009～2013） 年度の 社会に おける 活動	（NPO法人等の団体への参画） 平成 3年11月 高知心理療法研究所顧問「現在に至る」 平成10年 9月 医療法人渡辺クリニック 非常勤医師「現在に至る」 平成14年 2月 日本ユング心理学会常任理事「現在に至る」 平成24年 4月 日本ユング心理学会役員「現在に至る」 （小中高との連携授業の講師） 平成23年 1月 京都文教高等学校ALP「恋愛の心理学 ―自己犠牲から自己再創造へ―」、 於：京都文教高等学校 （その他） 平成21年 8月 オフィス オータム 主宰「現在に至る」